

【事前にメールでお送りした要旨】

教室内で説明内容を提示する方法として、「黒板に文字を書いて説明する」というのが古くから行われてきた。それに対し、情報技術の発展に伴い、PCを用い、パワーポイントなどのプログラムで教室内のスクリーンなどに説明内容を映し出す方法を採用している先生方もいる（私は用いたことがない）。クラスのサイズによっては、不可避免的にどちらか一方しか選びようのない場合もあるだろうが、選ぶことが可能だとしたら、どちらにどのような利点・欠点があるだろうか。また、そもそも学生はどちらを望んでいるのだろうか。学生に対して行ったアンケートの結果やいろいろなところで語られている言説などから、効果的な利用の仕方について考える視点を得たい。

【発表内容】

発表者は次の順番で議論を進めた。

1. 発表者自身はどのように授業中の説明をしているか。
2. 授業でパワーポイント（時にワード）を利用している事例の紹介
3. 授業でパワーポイントなどのプレゼンテーションソフト使用についての言説紹介
4. 発表者が実施したアンケートの結果報告

である。

まず、1. であるが、発表者自身はしているかパワーポイントは使用しておらず、黒板とチョークをもっぱら利用している。というのも、技術的に困難であるため、パワーポイントに不慣れであるためである。また、使用しなくてはどうしてもならない、というほど大人数の授業を担当しているわけでもないからである。ただし、PC自体は頻繁に利用しており、Youtubeや各種ウェブページの閲覧、DVD再生のためといった、授業を補完するものとして用いている。

2. では、スペイン語の授業において、ワードを用いて文法事項を説明している方の例を参加者に見ていただいた。文法の説明に加え、写真やネットへのリンクなども張られている。

3. では3. 1. として、言語学者・脳科学者の酒井邦嘉の発言を紹介した（出典は『脳を創る「書店」』（雑誌 *KOTOBA*、No.11、2013年春、集英社、pp.48-51 である）。酒井が取り上げたのは電子黒板の例ではあったが、パワーポイントに通ずるところがあるように思う。彼によれば、教員が学生の目の前で実際に文字を書くという所作や、学生に板書を写したことを確認する発言などのすべてが情報であって、それが黒板の電子化によって失われるという。

また、3. 2. として、帯広畜産大学のホームページを取り上げた。この大学では10年以上前からホームページ上で、（同大学教員向けに）板書の仕方、プレゼンテーションソフト利用に関する注意を促していて、大変興味深い。詳しくは <http://www.obihiro.ac.jp/~cea/bansyo.html> を参照していただきたい。

さらに3. 3. として、ネット上のページでパワーポイントの利用と、大学の授業方法について

論じたページを取り上げた。発表者の印象では否定的な意見が多いように思われる。具体的には、以下のページを紹介した。

「パワーポイントはなぜ授業を墮落させるか」 http://d.hatena.ne.jp/int_0/20081114/1226703265

「大学の授業の教授方法について」 <http://togetter.com/li/322591>

最後に4. では、発表者が勤務先で行ったアンケートを分析し、ざっと参加者に見ていただいた。学生たちには2013年度後期に登録している授業の数を尋ねたが、その中で担当教員が板書を行わない授業の数は、学生にもよるが、相当数あり、登録している授業数の7割以上の授業で板書が行われない、という学生も少なからずいる。語学の授業に限ると、だいたいの数は限定的になる。ただし、多くの学生が「語学は書くことによって覚える」という信念を持っており、板書を望む声も多いようである。(詳細な結果に関心のある方は、御連絡ください)

[結論・議論]

発表が終了時間ちょうどに終わったためもあり、参加者たちと十分な時間をとって議論は出来なかったが、パワーポイントの利用は使い方が問われるのであって、使うことそのものが悪いというわけではないという意見を頂戴したのと(発表中、否定的な意見を紹介したためと思われる)、

「板書で書いて覚える」という学生の意見を多数紹介したが、(黒板を写しきれずに)黒板の写真を撮って帰る学生もいる事例もあることから、それなら意味がないのでは、という意見があった。発表者には信じられなかったが、板書を写した写真がネット上で出回る事例もあるようだ。

発表者は、パワーポイントを決して否定的に見ているわけではないが、利用に苦手意識があるためと、黒板でなければできない学生の解答を添削するという作業に、意義を見出しているため、現状のような授業運営に至っている。しかしながら、時代が変われば我々の指導方法も変化すべきであるし、長期的な視点としては取り入れることを考えている(考えたまま終わらなければいいが)。